

2017年5月30日

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 社会イノベーターコース  
慶應義塾大学 SFC 研究所 社会イノベーション・ラボ

**【大学院進学希望者・SFC 在学生・自治体関係者対象】**  
**慶應義塾大学 SFC「地域おこし研究員」説明会（第2回）**  
**「SFC 生・地域おこしフィールドワーク（夏期休校期間）」説明会**

**【地域おこし研究員 説明会（第2回）】**

- 全国の自治体と連携し、大学院生が遠隔・対面での助言・支援を受けながら、  
地方創生の実学に取り組むプログラム -

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）に設置されている大学院 政策・メディア研究科「社会イノベーターコース（チェアパーソン：鈴木寛）」では、全国各地の自治体と連携し、地域の現場に根ざした「地方創生の実践」と「研究開発」の相乗効果を追求するプロジェクトを推進しています。

その一環として、自治体の協力の下、大学院生を地方創生の実践研究を推進する「地域おこし研究員」として任用していただき、遠隔と対面での研究指導や学習支援、対面で行う大学院プロジェクトなどを通じて、地方創生の実学の推進と人材育成に取り組んでいます。

「地域おこし研究員」は、総務省「地域おこし協力隊」制度（例：報償費 200 万円/年・活動費 200 万円/年、最長 3 年間）や自治体独自の制度等を活用するもので、実際の 社会インパクトを提供する、フィールドでの実践的な研究活動 を行う大学院生を対象に、自治体の選考により任用されます。慶應義塾大学 SFC と連携協力協定を結ぶ鹿児島県長島町をはじめ、複数の自治体と連携して推進しています。

任用された場合、任意のテーマを設定して研究実践に取り組むことが可能ですが、共通テーマとして「スポーツまちづくり」「地域商社」「高校魅力化」などで自治体との連携も予定しています。

このたび、以下の日程で「地域おこし研究員」の説明会（第2回）を開催します。地域おこし研究員の考え方や制度の説明、および大学院での指導体制、共通テーマと提案自治体について説明します。

大学院進学を検討されている方や、大学院・学部すでに在学中の方、地方自治体関係者、現場での地方創生の実践に興味がある方、地域社会の最前線での研究活動を行いたい方など、ぜひご参加ください。

**【SFC 生・地域おこしフィールドワーク（夏期休校期間）説明会】**

- 夏期休校期間に、集中的にフィールドワークを実施 -

慶應義塾大学 SFC の学生を対象に、全国各地の自治体と連携し、現場に根ざした「地域おこしフィールドワーク」の実施支援を行います。地域によっては、旅費の補助などもあります。また、総合政策学部、環境情報学部、政策・メディア研究科の学生は、手続きに従い、申請期間内に事前に申請を行い、認められた場合、秋学期にフィールド研究 1・2（学部生）や、フィールドワーク A・B・C・D（大学院生）の履修申告を行うことが可能です。（学部生：<http://www.gakuji.keio.ac.jp/sfc/pe/fieldwork.html>、大学院生：[http://www.gakuji.keio.ac.jp/sfc/gsmg/fieldwork\\_mag.html](http://www.gakuji.keio.ac.jp/sfc/gsmg/fieldwork_mag.html) 参照）

上記の「地域おこし研究員」の説明会（第2回）とあわせて、夏期休校期間に、地域の現場でフィールドワークやフィールド研究を検討されている SFC 生を対象に説明会・相談会を開催します。

**【地域おこし研究員・地域おこしフィールドワーク 説明会（実施概要）】**

- 開催日時：2017年6月19日（月）16:15 開始
- 開催場所：慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）κ12 教室  
SFC への案内図 <http://www.sfc.keio.ac.jp/maps.html>（神奈川県藤沢市遠藤 5322）
- 説明者（予定）：玉村雅敏（総合政策学部教授）  
土井隆（SFC 研究所所員・長島町：地域商社プロジェクト担当）  
岩月基洋（SFC 研究所上席所員：スポーツまちづくりプロジェクト担当）  
藤岡慎二（SFC 研究所上席所員：高校魅力化プロジェクト担当） ほか
- 説明会への申込み：説明会に参加を希望される方は [si-researcher@sfc.keio.ac.jp](mailto:si-researcher@sfc.keio.ac.jp) までご連絡下さい。  
※ 当日には参加出来ない方・相談がある方などもご相談下さい。

<本件に関する問い合わせ先>

- 慶應義塾大学 SFC 研究所 社会イノベーション・ラボ（E-Mail）[tama-lab@sfc.keio.ac.jp](mailto:tama-lab@sfc.keio.ac.jp)（担当：稲垣）
- 配信元 慶應義塾大学湘南藤沢事務室学術研究支援担当（E-Mail）[kri-pr@sfc.keio.ac.jp](mailto:kri-pr@sfc.keio.ac.jp)（TEL）0466-49-3436

## 【参考：「地域おこし研究者」について】

<http://si.sfc.keio.ac.jp/si-researcher/>

### 1. 基本的な考え方

- 鹿児島県長島町と SFC 研究所（社会イノベーション・ラボ）が共同で検討し、提唱をする制度。全国の自治体に呼びかけて、共同で推進し、地方創生の相乗効果を生み出すことに取り組む。
- 自治体は、総務省「地域おこし協力隊」制度（例：報償費 200 万円/年・活動費 200 万円/年、最長 3 年間）や、自治体独自の制度等を活用し、当該自治体での地方創生プロジェクトとして、実践的な研究活動を行う大学院生などを任用する。
  - 地域おこし協力隊の制度を利用する場合、その条件に適する大学院生等を自治体が任用する（例：当該地域への在住、1 年以上 3 年以内の活動など）。
  - ※ 制度設計・運用は、効果的な活動が出来るよう、事前に慶應 SFC との調整を行う。
  - 「大学院の可否」と「地域おこし協力隊等の任用」はそれぞれの基準で実施（連動しない）。
  - 大学院入学後の任用や、すでに地域おこし協力隊である方が入学試験に合格をし、大学院生となった場合に「地域おこし研究者」となることも可能とする。
  - 大学院修士課程（2 年間）修了後に、地域おこし協力隊等の任期が残っている場合、継続することも可能とする。
  - 地域にて起業をする場合には、地域おこし協力隊の起業支援制度（年 100 万円・3 年目や任期終了の翌年に利用可能）等を提供することも想定する。
- 慶應 SFC は大学院政策・メディア研究科 社会イノベータコースにて指導・支援体制を構築する。
  - 遠隔と対面の助言や研究指導を行い、実践的な研究成果を達成できるように支援する。
  - 社会イノベータコース指定の科目にて、対面・遠隔・集中等の研究指導環境を整備する。また、現地で実践的な研究活動を行いながら学ぶからこそ、効果的に学習できる授業設計を行う。
  - 条件を満たした場合、修士号に加えて、サティフィケート（コース修了証）「社会イノベータ」を授与する。
- 地域おこし研究者は、当該地域での地方創生プロジェクトとして、任意のテーマを設定して、実践的な研究実践に取り組む。なお、想定されるテーマとしては、高校魅力化や地域商社、スポーツまちづくりなどに関連したものもあり得る。
- 地域おこし研究者は、遠隔での受講に加えて、その活動費を用いて、慶應 SFC や都心サテライト等での研究ミーティングや授業等に定期的に参加する。
  - 週 1 回程度、インターネットを介した遠隔ミーティングを開催する。また、グループワークでの授業課題などにも取り組む。
  - 全国各地で活動する地域おこし研究者が月 1 回程度集合し、研究ミーティングを開催する。
- 自治体では、遠隔ミーティングや実践活動の拠点となる環境整備を整備する。また、慶應 SFC の教員や研究スタッフが訪問する際の旅費等の負担、活動費の提供を行う。

### 2. 共通テーマ ※ 地域おこし研究者が、下記以外の任意のテーマを設定することも可能

- ① 地域商社：鹿児島県長島町（協定締結済み）・ほか
- ② スポーツまちづくり：全国自治体と調整中 ※ 地域や詳細等は説明会で説明します。
- ③ 高校魅力化：「高校魅力化プロジェクト」による調整を通じて、展開地域を設定。
  - ※ これまでの展開地域（北海道利尻町・北海道羽幌町天売島・福島県只見町・新潟県阿賀町・長野県白馬村・岡山県和気町・広島県大崎上島町・大阪府能勢町・熊本県甲佐町・沖縄県今帰仁村・沖縄県久米島町）

### 3. 鹿児島県長島町における「地域おこし研究者」

- 長島町では 10 名程度の任用枠を想定（状況により 2017 年度の就任も想定）。
- 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科の学生・入学予定者から任用をする。
  - ※ 同研究科は入学試験をⅠ期（5 月中旬）・Ⅱ期（10 月中旬）実施。秋学期からの入学も可能。
- すでに、長島町の地域おこし協力隊である方が、政策・メディア研究科の入学試験に合格をした場合、「地域おこし研究者」として活動することも可能とする。
- 長島町での選考のもと、任意テーマでの活動が可能。